

旧防波堤（2 島）における鳥類のモニタリング調査 春季調査（4 月）報告書

2026 年 5 月 一般社団法人 お台場海づくり協議会

1. 調査目的

本調査は、お台場海浜公園内旧防波堤において鳥類の利用状況や経年変化を把握し、鳥類の生息環境保全について検討するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象地域

旧防波堤 2 島及び周辺水域（周辺 50m 程度）

3. 調査期日等

調査期日等を表 1 に示す。

表 1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
令和 8 年 4 月 23 日(木)	8 : 00～12 : 30 ^{注1}	曇りのち雨

注 1. 調査時間は 8:00～14:00 を予定していたが、12 時頃より雨天のため、12:30 に終了した。

4. 調査方法

各調査項目において、倍率 8～10 倍程度の双眼鏡や倍率 20～60 倍程度の望遠鏡等を必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、（2）～（4）の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2 島に調査員を 1 名ずつ配置し、2 島同時に実施した。また、補足調査として（5）の調査を実施した。

（1）船上センサス

2 島の 50m 程度沖を船舶により定速で周回しながら、2 島及び周辺を観察し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

（2）ラインセンサス

2 島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速 1～2km 程度の速度で歩きながら目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。センサスルートを各島に 1 本設定し、観察範囲を片側 50m（両側 100m）とした。

(3) 定点観察調査

2 島の眺望のよい地点に定点を 2 点ずつ設定し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。観察半径は 50m 程度、調査時間は各 30 分間とした。

(4) 任意観察調査

2 島の全域を任意に踏査し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

(5) その他

●自動撮影カメラによる調査

第 5 回秋季調査（※調査回の定義については後述）においてホンドタヌキのため糞が確認されたことから、島内に生息する生き物の情報を補完するため、同回の冬季調査から自動撮影カメラを西島に 1 台設置した。なお、本調査で回収したデータの撮影期間は、101 日間であった（第 11 回冬季調査～第 11 回春季調査）。

●その他の生き物の記録

鳥類調査時に特記すべき生き物が確認された場合は、種名、個体数、行動等を記録した。

写真 1 各調査手法における調査風景



船上センサス



ラインセンサス



定点観察調査

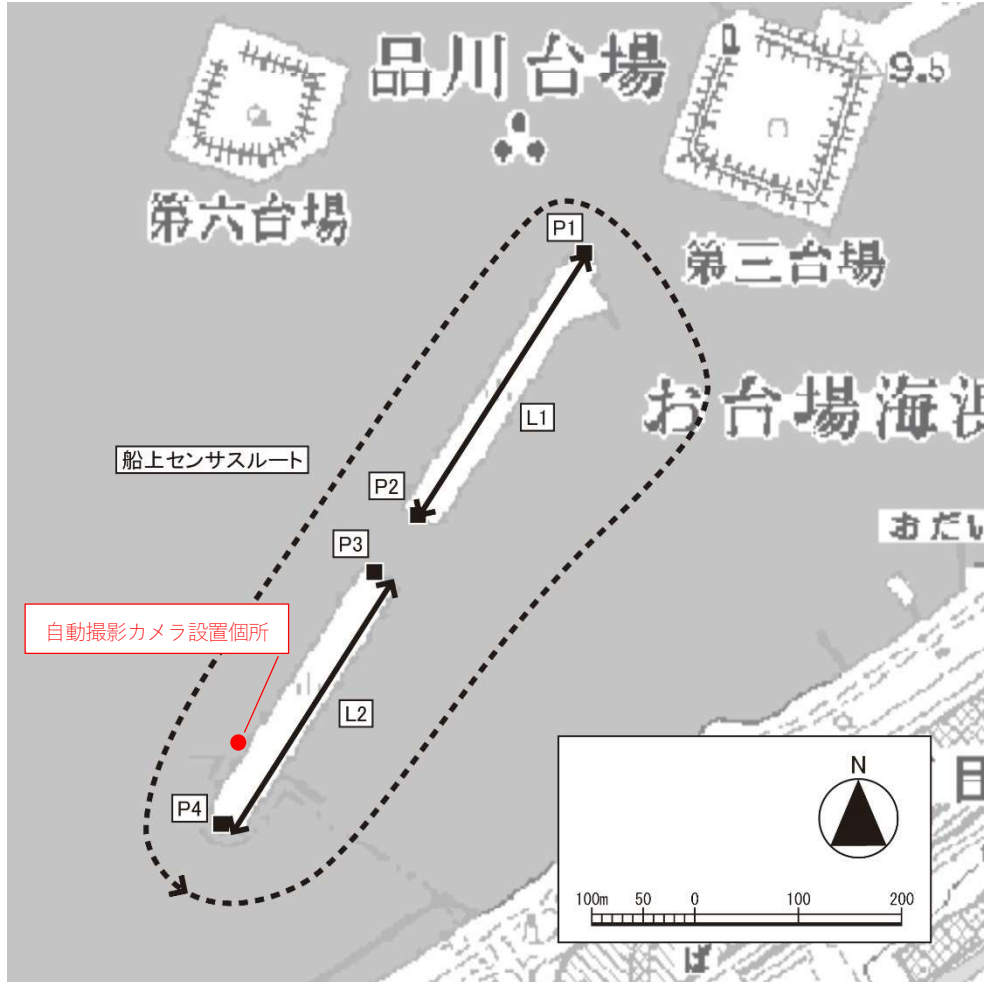


任意観察調査



自動撮影カメラによる調査

図 1 調査地点



5. 評価方法

(1) 調査回の定義

各調査結果をとりまとめ、過去の調査と比較をすることで、今回の調査結果を評価した。調査回の定義を表 2 に示す。今回は第 11 回の春季調査にあたる。

表 2 調査回の定義

調査回	調査時期	調査回	調査時期
第 1 回	平成 27 年夏季～平成 28 年春季	第 7 回	令和 3 年秋季～令和 4 年夏季
第 2 回	平成 28 年秋季～平成 29 年夏季	第 8 回	令和 4 年秋季～令和 5 年夏季
第 3 回	平成 29 年秋季～平成 30 年夏季	第 9 回	令和 5 年秋季～令和 6 年夏季
第 4 回	平成 30 年秋季～令和元年夏季	第 10 回	令和 6 年秋季～令和 7 年夏季
第 5 回	令和元年秋季～令和 2 年夏季	第 11 回	令和 7 年秋季～令和 8 年夏季
第 6 回	令和 2 年秋季～令和 3 年夏季		

(2) 重要種の選定根拠

重要種の選定根拠を表 3 に示す。いずれかに該当する種を重要種として記録した。

表 3 重要種の選定根拠

No.	選定資料	カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)	特天：特別天然記念物 天：天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年、法律第 75 号) ※以下、種の保存法と記す	国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2026 鳥類」(令和 8 年、環境省) ※以下、環境省 RL と記す	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
④	「東京都レッドデータブック 2023 (本土部)」 東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) 解説版 (令和 5 年、東京都) における区部の掲載種 ※以下、東京都 RL と記す	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 *：留意種

6. 調査結果

(1) 現地調査結果

鳥類確認種目録を表 4、船上センサス結果を表 5、ラインセンサス結果を表 6、定点観察結果を表 7 に示す。

- 現地調査の結果、7 目 17 科 22 種が確認された（表 4）。
- 確認種の約 5 割が水域及びその周辺に生息する種であり、11 種（カルガモやコチドリ、ダイサギ等）が確認された。島内では、森林及びその周辺に生息する種として 5 種（シジュウカラやメジロ、キビタキ等）が確認されたほか、都市部で見られる種として 2 種（ツバメ及びスズメ）、様々な環境で見られる種として 4 種（キジバト、トビ、ハシボソガラス及びハシブトガラス）が確認された（表 4）。
- 当該地域における渡り区分別にみると、留鳥（旧防波堤で一年中見られる種）の確認種数が最も多く、15 種（イソシギやシジュウカラ、ハクセキレイ等）が確認された。次いで、冬鳥（旧防波堤で冬に見られる種）が 4 種（コガモ、スズガモ、コリカモメ及びツグミ）、夏鳥（旧防波堤で夏に見られる種）が 2 種（コチドリ及びツバメ）、旅鳥（旧防波堤で春と秋に見られる種）が 1 種（キビタキ）確認された（表 4）。
- 重要種は、スズガモ、コチドリ、イソシギ、ウミネコ、ダイサギ及びトビの合計 6 種が確認された（表 4）。島内では、護岸及び砂礫地で採餌するコチドリ及びイソシギが確認された。島外では、海域で遊泳するスズガモが確認された。また、島内外では、上空を飛翔するウミネコ、ダイサギ及びトビが確認された。
- 外来種は確認されなかった（表 4）。
- 確認個体数が最も多かった種は、カワウであった。船上センサスでは、両島で合計 442 個体（表 5）、ラインセンサスでは、両島で合計 357 個体が確認され、優占度は東島で 95%、西島で 92%と両島において最も高い値を示した（表 6）。また、定点観察調査では、両島で合計 296 個体が確認され、優占度は各地点で 66～87%と全体的に高い値を示した（表 7）。両島の上空を飛翔する個体や広葉樹林内にとまる個体のほか、営巣する個体も多く確認された。
- カワウに次いで確認個体数が多かった種は、アオサギであった。船上センサスにおいて、両島で 16 個体（表 5）が確認された。東島東側の草地や護岸において、休息する個体が多く確認された。また、東島では第 9 回及び第 10 回調査に引き続き、第 11 回春季調査においてもアオサギの営巣が確認された。第 9 回では 3 巣、第 10 回では 12 巣、今回は 2 巣が確認された。
- 各調査手法のうち、確認個体数が比較的多かった種は、イソシギ、コリカモメ及びヒヨドリであった。イソシギは、船上センサスにおいて両島で 14 個体が確認され（表 5）、護岸及び砂礫地で採餌や休息する個体が多く観察された。コリカモメは、定点観察調査において両島で 17 個体、ヒヨドリは両島で 12 個体が確認され（表 7）、それぞれ海域や上空を通過する個体が多く観察された。

(2) 過去調査との比較

それぞれの前回調査との比較について、表 8 に確認種、表 9 に船上センサス結果、表 10 にラインセンサス結果、表 11 に定点観察結果、表 12 にこれまでの鳥類確認種目録を示す。

●第 10 回（前回調査）と第 11 回（今回調査）の確認種数は、第 10 回では東島で 20 種、西島で 22 種の合計 26 種、第 11 回では東島 17 種、西島で 18 種の合計 22 種であった（表 8）。両回で共通して確認された種は 18 種であり、第 10 回の確認種全体の約 7 割を占めた。第 11 回では、第 10 回と比較して当該地域における渡り区分別の種数に大きな変化は認められなかった。

●第 10 回では確認されず、第 11 回で確認された種は、コガモ、ハシボソガラス、メジロ及びキビタキの 4 種であった（表 8）。コガモは、これまで秋季及び冬季に不定期に確認されているが、春季においては初記録となる。ハシボソガラスは、調査開始以来、両島における初記録種であり、渡りの時期に一時的に飛来したものと考えられる。メジロは、比較的記録の多い種であるため、第 10 回では一時的に確認されなかったと考えられる。キビタキは、これまで秋季に少数が記録されているが、春季においては初記録であり、渡りの時期に一時的に飛来したものと考えられる。

●第 10 回で確認され、第 11 回では確認されなかった種は、オオバン、カイツブリ、コサギ、サシバ、カワセミ、ムクドリ、カワラヒワ及びアオジの 8 種であった（表 8）。冬鳥のカイツブリは、これまでの春季調査において第 8 回及び第 10 回の 2 例のみ、留鳥のカワセミは第 10 回の 1 例のみの記録であり、いずれも春季の記録数が少ないことから、第 11 回では確認されなかったものと考えられる。また、旅鳥のサシバは、各季を通じて第 10 回の 1 例のみの記録であり、記録数が極めて少ないことから、第 11 回では確認されなかったものと考えられる。一方、冬鳥のオオバン及びアオジ、並びに留鳥のコサギ、ムクドリ及びカワラヒワは、いずれも春季における記録数が比較的多い種であることから、第 11 回で確認されなかったのは一時的なものと考えられる。

●第 10 回より第 11 回で個体数が増加した種は、ゴリカモメであった（表 11）。ゴリカモメは、両島周辺の海域を移動しながら採餌や休息を行うため、日ごとの確認個体数の変動が大きい。また、春季は渡りの時期に該当することから、渡り個体の飛来が個体数の増加に影響したものと推測される。これらのことから、第 11 回では個体数が増加したものと考えられる。

●第 10 回より第 11 回で個体数が比較的大きく減少した種は、スズガモ及びカワウであった（表 9、表 11）。スズガモは、第 10 回では東島の干潟や砂礫地で休息や上空通過する個体が多く確認された。一方、第 11 回では西島東側の海域において 2 個体のみ確認された。冬鳥のスズガモは、春季は渡りの時期に該当することから、当地周辺で越冬していた個体が渡りを開始したことにより、個体数が減少したものと考えられる。カワウは、両島を繁殖地として利用しており、営巣数は第 10 回が東島では 274 巣、西島 193 巣であったのに対し、第 11 回では東島 162 巣、西島 193 巣であった。営巣数の合計は、第 10 回の 467 巣から第 11 回には 355 巣となり、前年より 112 巣減少した。特に東島での営巣数の減少が大きかった。また、西島では、第 10 回に初めてサクラ類での営巣が確認されたが、第 11 回では確認されなかった。前年と比較して、営巣数減少の要因は不明であるが、令和 8 年 3 月

28 日より運用が開始された噴水「東京アクアシンフォニー」や噴水音等による営巣への影響が懸念される。

都庁総合ホームページ「東京アクアシンフォニー」の運用を開始します！

- <https://www.metro.tokyo.lg.jp/information/press/2026/03/2026031205>

(2026 年 5 月 25 日閲覧).

【その他】

自動撮影カメラによる調査の記録を整理した結果、鳥類 5 目 7 科 7 種、哺乳類 1 目 1 科 1 種が確認された。

- 自動撮影カメラの画像を解析した結果、鳥類ではキジバト、カワウ、アオサギ、トビ、ハシブトガラス、ツグミ及びジョウビタキの 7 種、哺乳類ではクマネズミ属の一種の 1 種が確認された。
- 第 10 回春季調査に引き続き、カワウが嘴で巣材をくわえる様子が複数回にわたり撮影された。両島では多数のカワウの営巣が確認されており、島内に生育する樹木の枝を巣材として利用していると考えられる。
- お台場海浜公園内の海域において、昨年着工した噴水の設置工事が完成し、運用が開始されていた。また、噴水の周囲には複数の灯浮標が設置されているほか、2 隻の監視船が巡回していた。噴水施設が設置された海域には、例年、冬季にスズガモ等のカモ類をはじめ、多くの水鳥が越冬のため渡来する。そのため、今後の水鳥の渡来状況及び周辺海域の利用状況に留意する必要がある。

表 4 鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	渡り区分	調査時期		重要種選定基準				
					春季 (4月)		①	②	③	④	
					東島	西島					
1	カモ	カモ	カルガモ	留鳥	○	○					
2			コガモ	冬鳥		○					
3			スズガモ	冬鳥		○			NT	*	
4	ハト	ハト	キジバト	留鳥	○	○					
5	チドリ	チドリ	コチドリ	夏鳥		○				CR	
6			シギ	イソシギ	留鳥	○	○				VU
7			カモメ	ユリカモメ	冬鳥	○	○				
8				ウミネコ	留鳥		○			VU	*
9	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	○	○					
10	ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥	○	○					
11			ダイサギ	留鳥	○					NT	
12	タカ	タカ	トビ	留鳥	○	○				NT	
13	スズメ	カラス	ハシボソガラス	留鳥	○						
14			ハシブトガラス	留鳥	○	○					
15		シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥	○	○					
16		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	○	○					
17		ツバメ	ツバメ	夏鳥	○	○					
18		メジロ	メジロ	留鳥	○						
19		ツグミ	ツグミ	冬鳥		○					
20		ヒタキ	キビタキ	旅鳥	○						
21		スズメ	スズメ	留鳥	○	○					
22		セキレイ	ハクセキレイ	留鳥	○	○					
合計	7目	17科	22種	-	17種	18種	0種	0種	2種	6種	

表 5 船上センサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期		合計 個体数
				春季 (4月)		
				東島	西島	
1	カモ	カモ	カルガモ	5	5	10
2			スズガモ	0	2	2
3	チドリ	シギ	イソシギ	7	7	14
4	カツオドリ	ウ	カワウ	302	140	442
5	ペリカン	サギ	アオサギ	12	4	16
6	タカ	タカ	トビ	5	2	7
7	スズメ	カラス	ハシブトガラス	3	1	4
8		シジュウカラ	シジュウカラ	1	0	1
9		ツバメ	ツバメ	2	0	2
10		スズメ	スズメ	3	6	9
11		セキレイ	ハクセキレイ	0	3	3
合計	6目	10科	11種	9種	9種	11種

表 6 ラインセンサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				春季 (4月)				
				L1(東島)		L2(西島)		
				個体数	優占度	個体数	優占度	
1	ハト	ハト	キジバト	2	1%	5	3%	7
2	カツオドリ	ウ	カワウ	211	95%	146	92%	357
3	ペリカン	サギ	アオサギ	5	2%	1	1%	6
4	スズメ	カラス	ハシブトガラス	1	0%	1	1%	2
5		ヒヨドリ	ヒヨドリ	1	0%	0	0%	1
6		スズメ	スズメ	3	1%	6	4%	9
合計	4目	6科	6種	223	100%	159	100%	382
				6種		5種		6種

表 7 定点観察結果

No.	目名	科名	種名	調査時期								合計 個体数
				春季(4月)								
				東島				西島				
				P1		P2		P3		P4		
				観	優	観	優	観	優	観	優	
1	カモ	カモ	カルガモ	0	0%	2	3%	2	2%	0	0%	4
2	チドリ	シギ	イソシギ	2	2%	0	0%	0	0%	0	0%	2
3		カモメ	ユリカモメ	4	3%	0	0%	4	3%	9	16%	17
4			ウミネコ	0	0%	0	0%	2	2%	7	13%	9
5	カツオドリ	ウ	カワウ	93	79%	65	87%	101	76%	37	66%	296
6	ペリカン	サギ	アオサギ	0	0%	1	1%	8	6%	0	0%	9
7			ダイサギ	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	1
8	タカ	タカ	トビ	0	0%	4	5%	3	2%	1	2%	8
9	スズメ	カラス	ハシブトガラス	3	3%	2	3%	5	4%	0	0%	10
10		シジュウカラ	シジュウカラ	3	3%	0	0%	1	1%	0	0%	4
11		ヒヨドリ	ヒヨドリ	8	7%	0	0%	4	3%	0	0%	12
12		ツバメ	ツバメ	0	0%	0	0%	2	2%	0	0%	2
13		スズメ	スズメ	3	3%	0	0%	0	0%	0	0%	3
14		セキレイ	ハクセキレイ	1	1%	0	0%	1	1%	2	4%	4
合計	6目	12科	14種	117	100%	75	100%	133	100%	56	100%	381
				8種		6種		11種		5種		14種

表 8 前回調査結果との比較：確認種

No.	種名	調査時期			
		春季（4月）			
		第10回(R6~R7)		第11回(R7~R8)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	○	○	○	○
2	コガモ				○
3	スズガモ	○			○
4	キジバト	○	○	○	○
5	オオバン		○		
6	カイツブリ	○			
7	コチドリ	○	○		○
8	イソシギ	○	○	○	○
9	ユリカモメ		○	○	○
10	ウミネコ		○		○
11	カワウ	○	○	○	○
12	アオサギ	○	○	○	○
13	ダイサギ	○	○	○	
14	コサギ	○	○		
15	トビ	○	○	○	○
16	サシバ		○		
17	カワセミ		○		
18	ハシボソガラス			○	
19	ハシブトガラス	○	○	○	○
20	シジュウカラ	○	○	○	○
21	ヒヨドリ	○	○	○	○
22	ツバメ	○		○	○
23	メジロ			○	
24	ムクドリ	○			
25	ツグミ	○	○		○
26	キビタキ			○	
27	スズメ	○	○	○	○
28	ハクセキレイ	○	○	○	○
29	カワラヒワ	○	○		
30	アオジ		○		
合計	30種	20種	22種	17種	18種
		26種		22種	

表 9 前回調査との比較：船上センサス結果

No.	種名	調査時期			
		春季（4月）			
		第10回(R6~R7)		第11回(R7~R8)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	0	8	5	5
2	スズガモ	3	0	0	2
3	コチドリ	0	1	0	0
4	イソシギ	0	2	7	7
5	カワウ	507	252	302	140
6	アオサギ	8	3	12	4
7	ダイサギ	1	0	0	0
8	コサギ	0	2	0	0
9	トビ	0	1	5	2
10	ハシブトガラス	1	1	3	1
11	シジュウカラ	0	0	1	0
12	ツバメ	0	0	2	0
13	ムクドリ	1	0	0	0
14	スズメ	1	2	3	6
15	ハクセキレイ	0	0	0	3
合計個体数		522	272	340	170
合計島別種数		7種	9種	9種	9種
合計種数		12種		11種	

表 11 前回調査との比較：定点観察結果

No.	種名	調査時期															
		春季（4月）															
		第10回(R6~R7)								第11回(R7~R8)							
		東島				西島				東島				西島			
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カルガモ	1	1%	4	2%	0	0%	0	0%	0	0%	2	3%	2	2%	0	0%
2	スズガモ	11	6%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
3	キジバト	0	0%	1	0%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
4	イソシギ	0	0%	0	0%	3	2%	0	0%	2	2%	0	0%	0	0%	0	0%
5	ユリカモメ	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	4	3%	0	0%	4	3%	9	16%
6	ウミネコ	0	0%	0	0%	0	0%	2	2%	0	0%	0	0%	2	2%	7	13%
7	カワウ	157	82%	187	93%	133	90%	83	88%	93	79%	65	87%	101	76%	37	66%
8	アオサギ	4	2%	2	1%	2	1%	2	2%	0	0%	1	1%	8	6%	0	0%
9	ダイサギ	3	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%
10	コサギ	0	0%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
11	トビ	1	1%	0	0%	3	2%	0	0%	0	0%	4	5%	3	2%	1	2%
12	サシバ	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
13	ハシブトガラス	1	1%	2	1%	1	1%	1	1%	3	3%	2	3%	5	4%	0	0%
14	シジュウカラ	1	1%	0	0%	3	2%	0	0%	3	3%	0	0%	1	1%	0	0%
15	ヒヨドリ	2	1%	2	1%	1	1%	2	2%	8	7%	0	0%	4	3%	0	0%
16	ツバメ	4	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	2%	0	0%
17	スズメ	4	2%	2	1%	0	0%	0	0%	3	3%	0	0%	0	0%	0	0%
18	ハクセキレイ	1	1%	0	0%	1	1%	2	2%	1	1%	0	0%	1	1%	2	4%
19	カワラヒワ	1	1%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	19種	191	100%	202	100%	148	100%	94	100%	117	100%	75	100%	133	100%	56	100%
		13種		9種		9種		8種		8種		6種		11種		5種	

表 12 (1) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 6 回)

No.	種名	調査時期											
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～ R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～ R3 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
1	ハシビロガモ												○
2	オカヨシガモ				○		○		○	○			
3	ヒドリガモ									○	○		
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	マガモ		○	○	○		○	○	○				
6	オナガガモ				○	○	○			○			
7	コガモ							○					
8	ホシハジロ						○	○		○	○	○	
9	キンクロハジロ										○		
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	ホオジロガモ												
12	ウミアイサ		○					○	○	○			○
13	カッコウ科の一種											○	
14	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16	カイツブリ												
17	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	ミミカイツブリ			○								○	
19	ハジロカイツブリ	○	○	○	○				○	○	○	○	○
20	コチドリ	○	○		○	○	○			○	○	○	
21	チュウシャクシギ												
22	キョウジョシギ					○	○						
23	ヤマシギ												●
24	タシギ								○				
25	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26	キアシシギ									○			
27	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
29	カモメ	○	○			○							
30	セグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
31	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○					○	
32	コアジサシ	○	○	○	○	○	○		○				
33	ウミウ												
34	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
35	ゴイサギ					○							
36	ササゴイ		○										
37	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
38	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
39	チュウサギ									○			
40	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
41	ミサゴ	○		○			○		○		○	○	
42	ハチクマ	○											
43	ハイタカ		○		○					○			
44	オオタカ	○		○	○	○	○		○		●	○	●

エラー! 参照元が見つかりません。(2) 鳥類確認種目録 (第1回~第6回)

No.	種名	調査時期											
		第1回 (H27 夏~ H28 春)		第2回 (H28 秋~ H29 夏)		第3回 (H29 秋~ H30 夏)		第4回 (H30 秋~ H31/R1 夏)		第5回 (R1 秋~R2 夏)		第6回 (R2 秋~R3 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
45	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
46	サシバ												
47	ノスリ		○	○	○	○		○		○		○	○
48	オオコノハズク												
49	コミズク												
50	カワセミ			○			○			○		○	
51	アカゲラ												
52	チョウゲンボウ		○				○	○					
53	ハヤブサ			○	○	○	○	○	○				
54	モズ			○	○	○	○	○	○	○	○		
55	カケス				○								
56	オナガ			○	○	○	○			○			
57	ハシボソガラス												
58	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
59	ヤマガラ												○
60	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
61	ヒバリ						○						
62	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
63	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
64	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
65	オオムシクイ								○				○
66	オオヨシキリ			○		○				○	○	○	
67	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
68	ムクドリ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
69	コムクドリ				○	○							
70	シロハラ	○	○	○	○						●		○
71	アカハラ	○			○			○			○		
72	ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
73	キビタキ	○				○							
74	ジョウビタキ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
75	イソヒヨドリ	○	○		○		○		○		○		○
76	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
77	キセキレイ			○									
78	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
79	セグロセキレイ				○								○
80	タヒバリ						○				○		
81	シメ							○				○	
82	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
83	ホオジロ	○		○	○			○		○			
84	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
85	オオジュリン			○						○			
86	カワラバト(トバト)	○	○					○			○	○	○
合計	86 種	41 種	40 種	44 種	47 種	42 種	45 種	38 種	38 種	44 種	41 種	40 種	38 種
		47 種		53 種		51 種		47 種		52 種		48 種	

表 12 (3) 鳥類確認種目録 (第 7 回～第 11 回)

No.	種名	調査時期									
		第 7 回 (R3 秋～R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～R5 夏)		第 9 回 (R5 秋～R6 夏)		第 10 回 (R6 秋～R7 夏)		第 11 回 (R7 秋～R8 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
1	ハシビロガモ	○	○								
2	オカヨシガモ										
3	ヒドリガモ		○				○				○
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	マガモ										○
6	オナガガモ	○									
7	コガモ	○				○	○	○	○	○	○
8	ホシハジロ		○	○	○	○		○		○	○
9	キンクロハジロ										
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	ホオジロガモ	○									
12	ウミアイサ	○		○	○	○	○	○	○		○
13	カッコウ科の一種										
14	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16	カイツブリ			○		○		○			
17	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	ミミカイツブリ										
19	ハジロカイツブリ	○	○	○	○	○		○			
20	コチドリ	○	○	○	○	○	○	○	○		○
21	チュウシャクシギ		○				○				
22	キョウジョシギ		○				○				
23	ヤマシギ										
24	タンシギ										
25	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26	キアシシギ										
27	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
29	カモメ										
30	セグロカモメ	○	○	○	○		○	○	○	○	○
31	オオセグロカモメ	○	○								
32	コアジサシ										
33	ウミウ								○	○	
34	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
35	ゴイサギ										
36	ササゴイ										
37	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
38	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
39	チュウサギ										
40	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○		
41	ミサゴ							○		○	○
42	ハチクマ										
43	ハイタカ					○					
44	オオタカ		●		○	○	○	○		○	○

表 12 (4) 鳥類確認種目録 (第 7 回～第 11 回)

No.	種名	調査時期									
		第 7 回 (R3 秋～R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～R5 夏)		第 9 回 (R5 秋～R6 夏)		第 10 回 (R6 秋～R7 夏)		第 11 回 (R7 秋～R8 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
45	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
46	サシバ								○		
47	ノスリ	○	○		○	○	○	○		○	
48	オオコノハズク		●								
49	コミズク										●
50	カワセミ	○							○		
51	アカゲラ										○
52	チョウゲンボウ				○						
53	ハヤブサ		○				○		○		
54	モズ	○								○	
55	カケス					○					
56	オナガ										
57	ハシボソガラス									○	
58	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
59	ヤマガラ										
60	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
61	ヒバリ										
62	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
63	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
64	ウグイス	○	○		○				○		
65	オオムシクイ										
66	オオヨシキリ					○					
67	メジロ	○	○	○	○	○			○	○	
68	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
69	コムクドリ										
70	シロハラ	○	○		○		●				
71	アカハラ				●	○					
72	ツグミ	○		○	○	○	○	○	○	○	○
73	キビタキ								○	○	○
74	ジョウビタキ	○	○		○	○	○	○	○	○	●
75	インヒヨドリ	○	○	○	○		○	○			
76	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
77	キセキレイ							○			
78	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
79	セグロセキレイ										
80	タヒバリ							○	○	○	○
81	シメ										
82	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○		○
83	ホオジロ			○							
84	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
85	オオジュリン										
86	カワラバト (ドバト)	○	○	○	○	○	○				
合計	86 種	41 種	41 種	33 種	38 種	37 種	38 種	37 種	36 種	34 種	33 種
		48 種		40 種		45 種		44 種		41 種	

注 1. ● : 自動撮影カメラのみで確認された種を示す。



カルガモ



コガモ



スズガモ(重要種)



キジバト



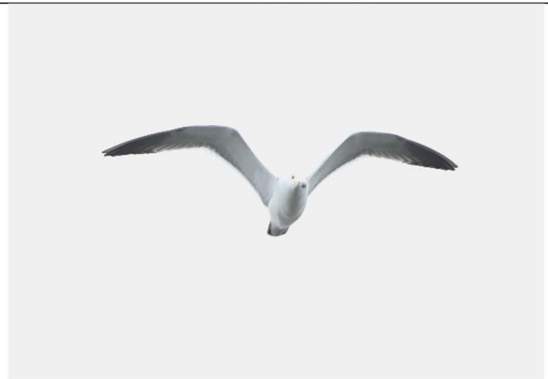
コチドリ(重要種)



イソシギ(重要種)



ユリカモメ



ウミネコ(重要種)

写真 2 (1) 確認された主な鳥類



カワウ



カワウ(巢内ピナ)



アオサギ(巢上)



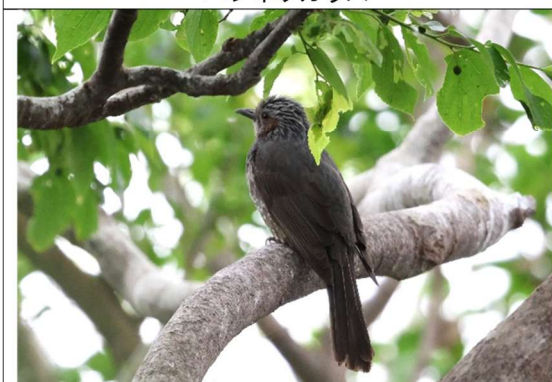
トビ(重要種)



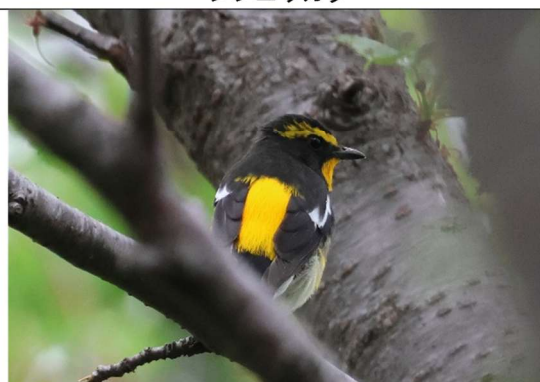
ハシボソガラス



シジュウカラ



ヒヨドリ



キビタキ

写真 2 (2) 確認された主な鳥類



スズメ

写真 2 (3) 確認された主な鳥類



写真3 自動撮影カメラで確認された生き物